2版

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６年　５月３０日現在

機関番号：１４４０１

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：１９Ｋ１３８８０

研究課題名（和文）日系アメリカ人の象徴的エスニシティに関する一考察　四世のルーツ探求行為に着目して

研究課題名（英文）A Study on Symbolic Ethnicity among Japanese Americans: Focusing on the Roots-Seeking Activities of the Fourth Generation

研究代表者

中橋　真穂（Nakahashi, Maho）

大阪大学・大学院工学研究科・助教

研究者番号：３０７３７５９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：世代交代を経た日系アメリカ人の日本語や日本文化との繋がりの希薄化が指摘されている。そういった中、日系アメリカ人四世や五世など、若い世代の間で日本語や日本文化を学ぶことを通しルーツを探求する動きがみられる。そこで本研究は、日系アメリカ人四世のルーツ探求行為に着目し、日系アメリカ人四世を対象にインタビュー調査を実施した。そしてここから、日本語学習や日本文化への興味などのルーツ探求行為が、Gans(1979)の提唱する象徴的エスニシティと捉えられる可能性について考察し、アメリカ社会における若い世代の日系アメリカ人移民の変遷および新しい社会的位置づけを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
日系アメリカ人四世のエスニック・アイデンティティとルーツ探求に着目し、世代交代を経た日系アメリカ人の変遷と新しい社会的位置づけについて考察した。これにより、アメリカ社会におけるアジア系アメリカ人、特に日系アメリカ人移民の変遷および新しい社会的位置づけを明らかにし、再解釈することを通し、長期にわたり蓄積されてきたアメリカ社会における移民研究へ新たな知見をもたらすことが期待される。また、若い世代の日系アメリカ人と日本人大学生との交流機会を設けたり、日系アメリカ人による講演会を日本人大学生を対象に実施することを通し、特に若い日米の学生たちの相互文化理解や交流促進に貢献した。

研究成果の概要（英文）：It has been pointed out that the connection between Japanese Americans and the Japanese language and culture has weakened after generational shifts. Amidst such circumstances, there is a movement among younger generations, such as fourth- and fifth-generation Japanese Americans, to explore their roots by learning the Japanese language and culture.
Therefore, this study focuses on the act of root exploration among fourth-generation Japanese Americans by conducting interviews targeting them. From this, the study analyzes the possibility that root exploration activities such as learning Japanese and showing interest in Japanese culture can be seen as symbolic ethnicity proposed by Gans(1979) and discusses cultural changes among Japanese Americans after generational shifts.

研究分野：異文化理解

キーワード：日系アメリカ人　エスニック・アイデンティティ　移民　ライフストーリー　半構造化インタビュー　象徴的エスニシティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

昨今、グローバル化が進み国や文化を越えて生きる人々の増加が指摘されているが、100 年以上前に日本から米国へと移住した日系アメリカ人もまた、日米文化の間で生きてきたエスニック・グループの一つである。1885 年以降、日本から米国へと渡った彼らは過酷な労働条件のもと懸命に働き、家庭を築き、1920 年には約 10 万人が米国本土に住むまでになる。第 2 次世界大戦時や戦後も強制収容所、貧困、差別など困難な状況下で彼らの多くは子供には英語を話させ、アメリカ社会に同化させることで社会進出を図った。その結果、今日では社会的地位が確立し「成功したマイノリティ」と称されている（森茂 1999)。一方で、日本語・日本文化継承は盛んではなく、この急速な同化は「モデルマイノリティの"民族的自殺"」とまでいわれるほどに固有の民族文化的諸要素を失いつつあるとみられた（江淵 2002)。このような経緯を経て現在、行動様式はアメリカ化し、他のアジア系との婚姻が増え、日系とは何かが曖昧になりつつある。一方、そういった中で、若い世代のなかには日本語や日本文化を大学などで学ぶことを通し、曖昧になりつつある日系の「ルーツ」を探求する者もみられる。Gans(1979)は、実生活に影響を及ぼさないルーツ探求を象徴的エスニシティと呼び白人にのみ当てはまるとした。

そこで本研究では、日系アメリカ人四世への調査を通し、Gans の提唱した象徴的エスニシティとの関係を考察し、世代交代を経た日系アメリカ人の文化変容と社会的位置づけ及びその要因を明らかにすることを試みた。そこから、現代アメリカ社会に生きる若い世代のアジア系移民の新しい知見を得ることを目指した。

２．研究の目的

以上の背景をもとに本研究は、現代において比較的社会的地位の確立した非ヨーロッパ系、特に日系アメリカ人移民の変遷および新しい社会的位置づけを明らかにしようと試みるものである。これにより、長期にわたり蓄積されてきた移民研究へ新たな知見をもたらすことが期待される。そこで本研究の目的は、日系アメリカ人四世のエスニック・アイデンティティとルーツ探求に着目し、Gans(1979)の提唱した象徴的エスニシティとの関係を考察し、世代交代を経た日系アメリカ人の変遷と新しい社会的位置づけ、及びその要因を明らかにすることとした。さらにここから、日系アメリカ人の適応過程を再解釈することで、現代アメリカ社会における若い世代のアジア系移民に関する新しい知見を付与することを試みた。

３．研究の方法

これまでの先行研究の整理と新たな資料収集に加え、日系アメリカ人四世に対し半構造化インタビュー（約１時間）を実施、録音データを文字化し、ライフストーリー法を援用した。

また、インタビュー調査と並行し、参与観察を実施する計画を立てていた。具体的には、日系アメリカ人サークル、日系アメリカ人コミュニティに参加し、活動内容や目的、当事者の様子を観察、撮影、フィールドノートに記述し、当事者に意識化されていない部分を把握する予定であった。しかし、長期化する新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、参与観察の実施は断念し、代わりに日系アメリカ人コミュニティや日系アメリカ人サークルの活動内容等について、各ホームページや SNS を通して情報を収集した。

４．研究成果

長期化した新型コロナウイルス感染症拡大の影響と２度の育児休業取得のため、研究開始当初に予定していた現地調査等を大幅に変更して実施せざるを得なかった。しかし、オンラインツール等を活用し、可能な範囲で調査を実施し以下の成果を得た。

日本語や日本文化に興味を持つ日系アメリカ人四世へのインタビュー調査を通し、日系アメリカ人としてのエスニック・アイデンティティや、彼らを取り巻く周辺環境や彼らの考える日系アメリカ人の今後について、そしてそのような環境下で日本語・日本文化に興味を持つ意味について彼らの語りから分析した。結果、日系アメリカ人の社会的地位の確立及び、多文化社会の流れにより、日系にこだわらないエスニック・バックグラウンドを越えた幅広い交流が確認された。それに伴い日系アメリカ人としてのエスニック・アイデンティティが曖昧になり、アジア系アメリカ人化が進んでいることも確認された。このように、意識の多様化、エスニック・グループを越えた幅広い交流や「混血」の増加、そして一世や二世の多くが持つ社会的記録の共有感情もない状況から見て、現代の日系アメリカ人四世にとって、既存のエスニック・アイデンティティや人種の枠内で日系アメリカ人をはっきりと定義することは困難な状況になっていることが明らかとなった。

そういったなか、本調査協力者である日系アメリカ人四世からは、日系アメリカ人としてのエスニック・アイデンティティを程度の差はあれ再構築しようとし、今後のキャリアとは関係なく日本語や日本文化に触れる様子が確認された。その背景には、主体として個人を尊重し、歴史的、社会的あるいは関係的に形成され多様に位置取られるアイデンティティを認め尊重する多文化教育の推進により、多様な声の回復を目指すとともに、一人ひとりの多様なナラティブに耳を傾

けることのできる風潮があり、若者らに英語以外の言語を話すことや自身のルーツを表現することの肯定感を抱かせる要因であることも確認された。つまり、多文化社会のもと、より多様性を認める社会へと変化したことが、ルーツを考えるきっかけともなり、「民族」を規定する要素の一つであり「文化」を象徴するものでもある「言語」に興味を持つこととなった一つの大きなと要因と捉えられる。さらに、世代交代を経て、日系アメリカ人のアメリカでの社会的地位上昇、日本の経済成長などを受け、日系や日本に対する肯定的な意識を持ったことも、日本語や日本文化への興味といったルーツ探求に向かわせた要因と捉えることができる。

このように、日系としての立場が曖昧になり、アジア系としての連帯意識が強まる中、日本語・日本文化に興味を持つことの意味を、エスニック・アイデンティティとの関係から考察した。そして、この動きを、Gans(1979)の提唱した象徴的エスニシティとの関係を分析、世代交代を経た日系アメリカ人の変遷と新しい社会的位置づけについて考察した。

しかし、調査期間中に起きた新型コロナウイルス感染症拡大が、日系アメリカ人を含むアジア系アメリカ人の状況を大きく変える。2020 年初頭に始まり全世界に深刻な影響を与えた新型コロナウイルス感染症拡大は、アメリカでも急速に広がり、この状況下でアジア系アメリカ人に対する差別や偏見が急増する。特に、「アジアンヘイト」と呼ばれるアジア系に対する憎悪犯罪が増加し、暴力や嫌がらせ、差別的な発言などが報告された。アメリカ社会での地位を確立してきた日系アメリカ人もまた、このアジアンヘイトの波により、他のアジア系コミュニティと同様に、嫌がらせや差別的な行為の対象となることがあった。このように、世界がパンデミックに見舞われたことにより、一見緩やかになっていたかのように見えた日系アメリカ人を含むアジア系アメリカ人への差別が、浮き彫りとなる。調査期間中に新たに浮上した、このパンデミックによる「アジアンヘイト」が日系アメリカ人の意識に及ぼす影響については改めて、今後の研究課題として取り組みたいと考える。

さらに本研究の実践への還元として、2019 年及び 2020 年には若い世代の日系アメリカ人と日本人大学生との交流機会を設け、2021 年には日系アメリカ人による講演会を日本人大学生を対象に実施した。これらの実施を通し、特に若い日米の学生たちの文化理解や交流促進に貢献した。

本研究は比較的リベラルといわれているカリフォルニア州で生まれ育ち、大学に通う（もしくは通っていた）社会的地位の高い調査協力者、かつ、日本語や日本文化に何らかの接点を持つ者である。しかし一方で、本調査協力者とは違い、日本語や日本文化に興味を持たない日系アメリカ人四世が多く存在するのも事実である。今後は、先述したパンデミック後の状況も考慮しながら、より多くの日系アメリカ人四世以降を対象に調査を実施し、日系アメリカ人四世以降の意識について理解を深めていきたいと考える。そして、日系アメリカ人の適応過程を再解釈することで、現代アメリカ社会における若い世代のアジア系移民に関する研究の今後の発展が期待される。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 中橋真穂	４．巻 53
２．論文標題 日系アメリカ人四世とルーツ探求	５．発行年 2021年
３．雑誌名 異文化間教育	６．最初と最後の頁 162-179
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 中橋真穂
２．発表標題 日系アメリカ人４世の来日経験－エスニック・アイデンティティに着目して－
３．学会等名 日本移民学会第30/31 回年次大会
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計3件

国際研究集会 Cultural Exchange with the Younger Generation of Japanese Americans	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Cultural Exchange with the Younger Generation of Japanese Americans	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Journey and Present of Japanese Americans	開催年 2021年～2021年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関